

# Special Interview

スタッフの生の声を聞くインタビューコーナー。  
どのような経験を経て今に至り、  
現在、どのような思いを持っているのかを聞いてみました。

学生さんには、  
「迷わず、進みましょう」「って  
言いたい(笑)



デザイナー・絵画教室講師

## 佐久間 友里

SAKUMA YURI

千葉県在住のグラフィックデザイナー。株式会社サウザンドデザインにて、月間の通販雑誌を担当。PCを使ったデザインはもちろん、手書きのイラストも積極的にデザインに取り込み、温かみのある生き生きした作品を仕上げることに定評がある。絵画教室では主に子供向けクラスを担当し、厳しくも優しいスタイルで親しまれている。

### 進路は自分の置かれた 状況から導き出された

編：今日はよろしくお願ひします。  
佐久間さん：よろしくお願ひします。

編：ではまず経歴を教えてください。  
佐久間さん：中学校を卒業して、普通  
高校からデザイナーの専門学校へ行き  
ました。そこは千葉県内でほぼ唯一のデ  
ザイン学校です。グラフィックデザイン  
を専攻しました。

編：デザインの勉強をしたと思った  
きっかけがありますか？  
佐久間さん：小さい時から絵を描いた  
り、物を作るのが好きだったので、その特  
性を活かせる仕事があったのです。  
編：美術大学ではなく、専門学校を選  
んだ理由はなんですか？

佐久間さん：私は千葉県に住んでいま  
したが、当時は実家から離れた学校へ通  
うイメージがなくて、住んでいる地域か  
ら自然にその学校を選びました。(東京  
都内の西に多い有名美大の受験とい  
うのはあまり現実的ではなかったです。  
また、専門学校の学費は2年間で

200万くらい。私立の美術大学です  
と卒業までに1,000万円ほどかか  
るため、経済的な面でも美大というのは  
選択肢にありませんでした。

編：よく学費以外に画材を自費で購  
入する、といったイメージがありますが？  
佐久間さん：私の場合はグラフィックデ  
ザイン専攻というのもあってか、学校で  
は画材を自分で買った必要はほ  
んどありませんでした。Macでイラ  
ストレーターやフォトショップを使い始  
めたのは専門学校へ入ってからでした。  
それまではソフトのこともよく知らな  
かったくらいです。とはいえ、制作環境は  
自宅にあった方がよいと思い、Macや  
必要なソフトは購入しましたね。

編：進学に関して反対されたことや苦  
労はありましたか？  
佐久間さん：両親は「好きなことをやり  
なさい」と勧めてくれましたし、高校で  
推薦をもらったのでいわゆる受験はな  
く、大変と感じたことはありませんで  
した。

### 学校は楽しかった

編：専門学校はどうでしたか？  
佐久間さん：学校での勉強は楽しかった  
です！電車の中吊り広告を自由に作っ  
たり、オリジナルの雑誌を企画から考え  
て作ったり。好きだったものづくりを高  
いレベルで行うことができました。グルー  
プワークもありましたが、ひとりで制作  
する方が好きでしたね。

編：グループは苦手？  
佐久間さん：苦手というか：私はグ  
ループを仕切るタイプではなかったの  
で、メンバーのバランスを考えて動くこ  
とに注力しちゃうようです。作品を作  
ることに限っては、自由に思い切り表現  
できる個人の方が好きでした。

編：その学校ではどんな進路に進む人  
が多かったのですか？  
佐久間さん：専門学校からは、自分の周  
りでは印刷会社やWeb関係、グラ  
フィックデザインへ進んだ人が多かった  
です。一般職に行った人はそれほど多く  
はなかったように思いました。

編：佐久間さんの卒業後は？  
佐久間さん：私は卒業後、アパレルの会  
社に就職しました。というのも、服の柄  
やポスターなどのデザインがメイン、と  
いった募集でしたので、服が好きだった  
私に向いているのではないかと思っ  
たからです。無事に入社できたのですが、デ  
ザイン仕事がない期間は、企画の仕事な  
どしていました。不思議なもので、しば  
らくデザインから遠ざかると、勉強して  
いた時間の方が長いのに、知識や技術が  
どんどん抜けてしまっている自分に気づ  
き、「これではいけない」と思い、現在の  
会社に応募しました。

編：それは正解でしたか？  
編：それは正解でしたか？

佐久間さん：はい、求人票を見たと  
きに「基礎から教えて  
くれる」とあったのが決  
め手でした。もちろん基  
礎はあるつもりでしたが、人  
を育てる気風のある会社に身  
を置きたいと思ったからです。  
編：実際に仕事をしていてどうで  
すか？

佐久間さん：学生の時と違い、自分の  
作品を作っているのではなく、お客さま  
のために制作している、というのを常に  
意識させられます。お客さまの要望に  
しっかりと応えられているかな？とい  
う不安は常にありますね。でも、難しい課  
題があっても、そのリクエストに  
応えていく中で、新しい技術が身につくと  
実感できます。最近特に、自分なりに  
よいデザインができたと思うときの達  
成感が嬉しいです。お客さまにもそれが  
認められると、喜びもひとしおです。

### 振り切っちゃって大丈夫

編：今後の目標はありますか？  
佐久間さん：そうですね。まずは失敗  
を減らすこと。そして他の雑誌などを  
見ながら勉強しているのですが、今より  
もさらにデザインに幅を持たせたいと  
思っています。

編：切磋琢磨している姿は素敵ですね。  
進路のことで悩んでいる若い人たちにア  
ドバイスはありますか？  
佐久間さん：もし思い切った進路に舵  
を取れない、という人がいたら、「問題な  
し。迷わず、やりたいことへ向かって進  
みましょう」と言いたいです。美術系の  
専門学校へ行っても、就職にダイレク  
トに繋がるかは不透明と言われています  
し、実際私もそう言われましたが、特に  
不安はありませんでした。私を含め、み  
んなそれなりに社会へ羽ばたいて行き  
ましたし。少しでも興味があるのなら、  
勇気を出して一歩踏み出すことが大事  
だと思います。

編：今日はどうもありがとうございました。  
編：今日はどうもありがとうございました。

佐久間さんにデザインを頼みたい方は  
ご依頼の際、「佐久間さん指名」と  
お書き添えください。